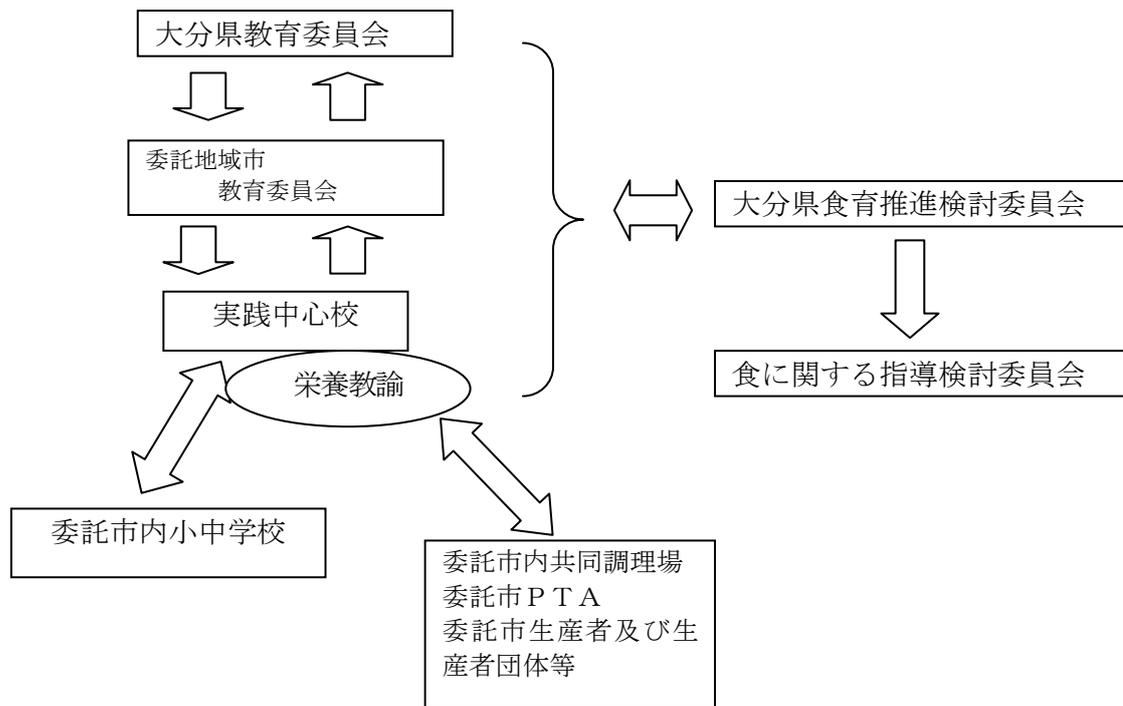


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	大分県
再委託先名	宇佐市 日出町 由布市 佐伯市 竹田市 玖珠町

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

### テーマ1 学校、家庭及び地域が連携した学校教育活動全体における食育推進を県下に広げる取組

#### ○大分県食育推検討委員会（年2回実施）

（実践中心校校長・栄養教諭、市教委・県教委担当者、JF・JA・PTA代表者）

- \* 事業の概要、本委員会の今後の持ち方及び予算執行等について県教委から説明
- \* 昨年度の実践地域及び実践中心校での取組を紹介
- \* 県教委及び推進地域の事業計画紹介及び1年間の実践報告
- \* 事業実施内容についての質疑応答及び意見交換
- \* 推進地域での取組を県下に情報発信していくための協議
- \* 保護者や生産者等との連携した食育推進についての協議

#### ○食に関する指導検討委員会（年4回）

（全栄養教諭及び県教委）

- \* 推進地域の事業計画の紹介及び1年間の実践報告
- \* 市町村における栄養教諭の役割、共同調理場の受配校への食に関する指導のありかた等についての意見交換。

\*各教科等における食に関する指導の実践事例紹介

\*西九州大学教授 澤野香代子氏による講演及び演習

演題「学校・家庭・地域が連携した食育推進における栄養教諭の果たす役割」

演習「学校において食育を推進するに当たっての現状と課題について」

\*大分県農業協同組合及び大分県漁業協同組合と地場産物を活用した食育推進について意見交換



○学校給食主管課長、学校給食調理場長会議

○学校給食衛生管理講習会

\*平成21年度及び22年度の「栄養教諭を中核とした食育推進事業」実施について説明

○「食育実践研修会」

\*長崎純心大学准教授 松本和昭氏による講演

演題「学校における食育の推進」

既に

\*竹田市立菅生小学校戸次達彦校長が実践発表。

主題 「食に関心を持ち、自分の健康を考  
えることのできる子どもをめざして」

～栄養教諭と連携した食育や体験活動を中心に～



## テーマ1に共通する具体的計画

各教育事務所毎に1地域を推進地域として指定し、地域や実践中心校の課題に応じた効果的な実践研究に取り組む。

### 推進地域（実践中心校）

推進地域

- 宇佐市（安心院中学校） ○日出町（川崎小学校）
- 由布市（挾間小学校） ○佐伯市（下堅田小学校、木立小学校）
- 竹田市（菅生小学校） ○玖珠町（森中央小学校）

## 数字で変化のあった事項について

○地場産物活用率

H21年度 74.3% → H22年度 75.1%（重量ベース）

○学校給食において、月1回「食育の日」等を決めて地場産物を活用し、食育に取り組む学校の割合

H21年度 76.8% → H22年度 85.6%

## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- 大分県食育推進検討委員会を開催することにより、県教育委員会、推進地域での実践等について情報交換を行うことができ、効果の上がる内容については積極的に事業に取り入れる等、各自の取組に生かすことができた。また、市町村における栄養教諭の活用について協議ができ、食に関する指導を行う上での体制作りが促進された。さらには、検討委員会においてPTA、JA及びJFの代表者と協議を行うことにより、これらの関係団体に対して栄養教諭の役割その活動内容について理解を深め、今後の連携方法等について確認することができた。
- 「大分県食育実践研修会」（平成23年1月25日開催：管理職や校内における食育推進担当教諭等を対象）において、竹田市立菅生小学校の戸次達彦校長が委託地域の実践中心校における取組を発表した。

### 参加者のアンケートより

- ・校長先生がリーダーシップをとって、学校の食育を推進していった事が良くわかりました。
- ・菅生小の児童及び職員の楽しく充実した教育活動の様子がよくわかりました。
- ・大変参考になり、自校の実践に生かしていきたいと思えます。
- ・栄養教諭と連携し、学校全体で行う食育は、短期間でも効果が表れることが分かった。
- ・栄養教諭を活用した具体的実践よくわかりました。
- ・地域、家庭を巻き込む食育、素晴らしいです。
- ・栄養教諭の授業が、子どもの食だけでなく生活にまで影響していることがわかった。
- ・学校の取り組みが家庭の変容に繋がっていることがすごいと思えました。

- 県内の全栄養教諭を対象とした「食に関する指導検討委員会」を開催することにより、栄養教諭の専門性を生かした指導場面やその内容、学校内での食のコーディネーター役として栄養教諭が果たす役割等についての情報交換ができた。また、有識者による講義や演習を行うことにより、栄養教諭の資質の向上が図られた。
- 学級担任と栄養教諭との連携による各教科等における食に関する授業についての参観を、栄養教諭同士で行い研究協議することにより、栄養教諭の資質の向上が図られた。
- 推進地域を各教育事務所毎に1地域としたことにより、実践中心校における公開研究授業や食育フォーラムに県内各地の多くの教職員が参加することができ、自校での実践に生かすことができるなど、各地域における食育推進のための効果的な働きかけを行うことができた。

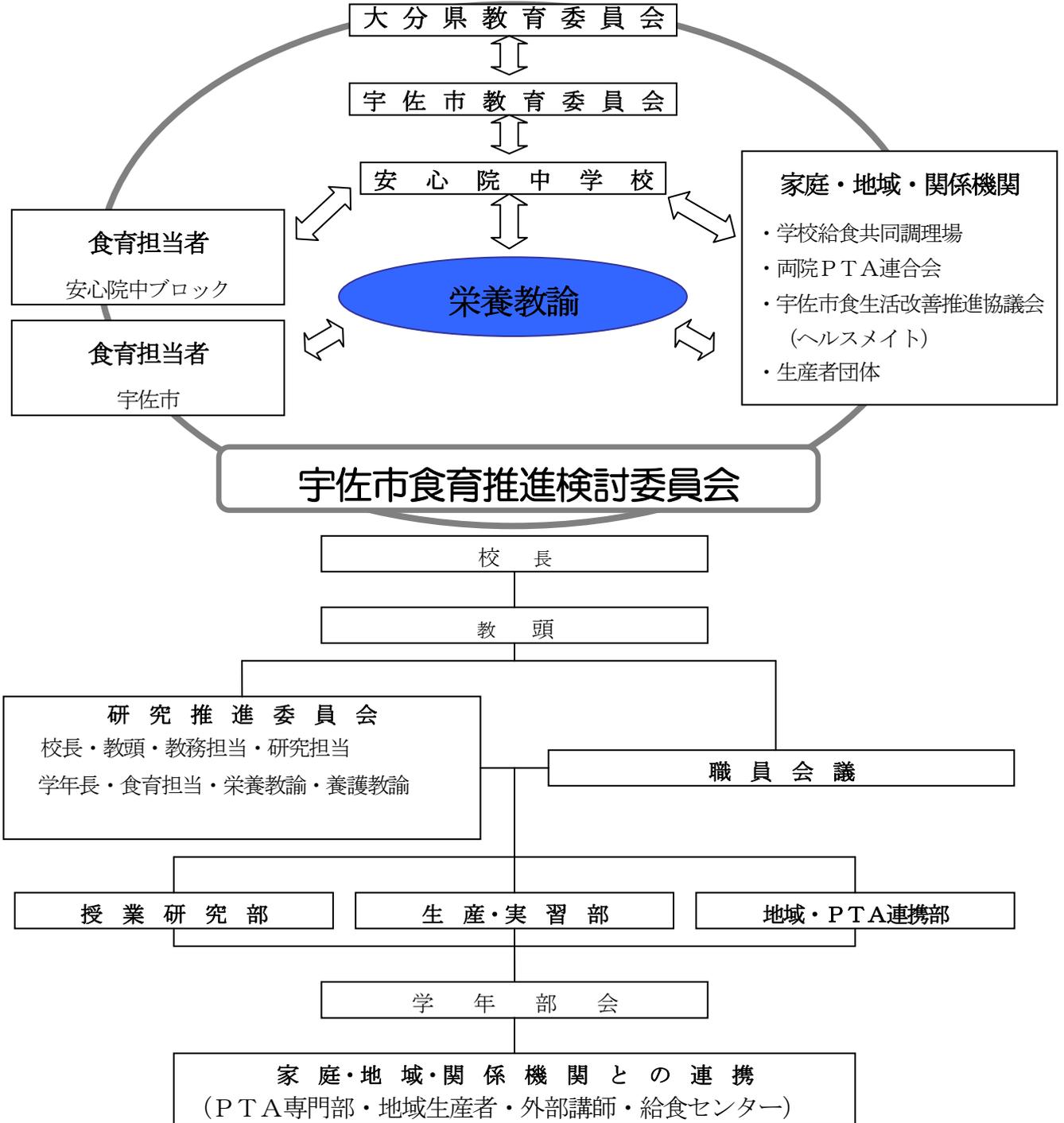
## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 本事業を通じて作られたネットワークを生かし、継続的な体験活動を展開したり、「食に関する指導の全体計画・年間計画」に基づいた、教科と連携した効果的な学習の充実を図り、食に関する指導を定着させていくこと。
- 単独校勤務の栄養教諭と共同調理場勤務の栄養教諭では取り組みや進め方に違いがあるが、それぞれの良さを生かしながら、所属校においても受配校においても学校や地域の実態を踏まえた効果的な指導が行えるような体制作りが必要であること。
- 市町村内での栄養教諭の活用については、今後も研究を重ねていき、県教委、市教委及び各学校の教職員が、それぞれの立場でどう働きかけていけばよいのか等、役割を明確化にすること。
- 食育推進には、学校長のリーダーシップが大きな力となっている。今後とも、管理職等を対象とした研修会を開催し、食の重要性の理解促進に努める必要があること。
- 推進地域の取り組みを県内に紹介していく場の設定に努め、推進地域以外でも食に関する指導が充実するよう、情報発信を行うこと。

再委託先名

宇佐市

### 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

### テーマ1 学校における食に関する指導を充実させるための取組

- 食育担当者を中心とした校内推進体制を整え、各教科、特活、総合的な学習の時間等の中で授業実践に取り組んできた。
  - 食に関する指導の全体計画や年間指導計画を見直すことができた。
  - 栄養教諭が各学校の食育担当者と連携し、地域や各学校における児童生徒の食に関する実態を把握し、栄養教諭の指導が効果的となる教材の選定や指導法の工夫等を行いながら指導を行った。
- 《 食育実践授業「食事と生活について考えよう」(総合的な学習) 》**  
 ＊給食の食材を6つの食品群に分類し、その食品が体にどのような働きをしているのか知らせ、バランスよく食べることの大切さを理解させた。また、生活リズムが食生活に大きく関わっていることを自分の生活リズムを振り返りながら考えさせた。
- 地域の生産者や保護者に協力を求め、親子料理教室(8月)や農業体験学習(6月)を実施することができた。小学校での体験を生かして、多くの生徒の生き生き活動する姿が見られた。



安心院中学校(1年)  
「生活リズムと食事バランスの関係はあるのか?」  
栄養教諭と養護教諭によるT・T



安心院中学校(1年)  
「農業体験学習」  
農業指導者 2名

#### 《 親子料理教室 》

- ・実施日：8月7日(土) ・場所：安心院中学校 ・対象：生徒、保護者、教職員
- ・講師：大分県食育コーディネーター ・内容：夏野菜を使った昼食おすすめメニュー

### テーマ2 小・中連携による食に関する指導方法等の研究

- 市内31校のうち、同じ共同調理場の小・中学校9校における推進体制「宇佐市食育推進検討委員会」を設置し校種間連携と発達段階に応じた食育の在り方について検討を深めた。

#### 《 第1回宇佐市食育検討委員会 》

- ・実施日：平成22年6月4日(金)
- ・場所：安心院中央公民館 ・参加人数：16名(生産者、小中学校教職員、市職員、教育委員会職員)
- ・内容：「栄養教諭を中核とした食育推進事業」について趣旨説明、年間計画について協議
- ・取り組みの方向性：
  - ①各学校が趣旨を確認し、それぞれの取り組みを本事業に取り入れる。
  - ②小中が連携できる場を確保し、系統的な一貫した取り組みを行う。

南院内小学校  
(1年) 栄養指導



深見小学校(5・6年)  
家庭科「朝食をつくろう」



- 食に関する指導資料集(報告書)を作成し、研究実践を各校の取組に生かしていった。
- 食育に関する授業研究会及び研究協議の開催(6月18日)



○ 地域の生産者グループを招いて地場産物を活用した

「交流給食会」を実施する。

- ・ 10月～1月の各月ごとに実践協力小学校が、1校あたり3名の地域の生産者を招き交流給食を行った。

○ 安心院中学校文化祭において保体部による食育の展示を行った。

- ・ テーマを6つ設け（カルシウムのひみつ、食品添加物について、食事バランスガイドって何だろう？朝食を食べるわけ、6つの基礎食品群等）生徒や保護者、地域の方へ啓発を行った。



安心院中学校（文化祭）



佐田小学校

地域の方との協力で作ったアイガモ米をみどりフェスタで販売



津房小学校「交流給食」イチゴを作っている方や栄養教諭、栄養士



深見小学校  
菜種から菜種油、そしてバイオ燃料車へ



安心院小学校（4年）  
「健康と食事の関わり」

## テーマ1～3に共通する具体的計画

### 《先進地視察報告》

7月1日～2日 白石中学校（佐賀県）及び舞鶴中学校（鹿児島県）へ

- ・ 栄養教諭を活用した授業が、年間指導計画の中にしっかり位置づいており、指導がスムーズに行える学校体制の在り方を学ぶことができた。
- ・ 授業日と参観日を組み合わせしており、保護者への啓発や連携面からも、うまく機能できていた。
- ・ 農業体験活動等は、給食の食材納入に関わっていただいている方に協力を得ており、地場産業としての農業を理解する取り組みになっていた。
- ・ 栄養教諭が、様々な取組のコーディネーター役を果たすことができていた。



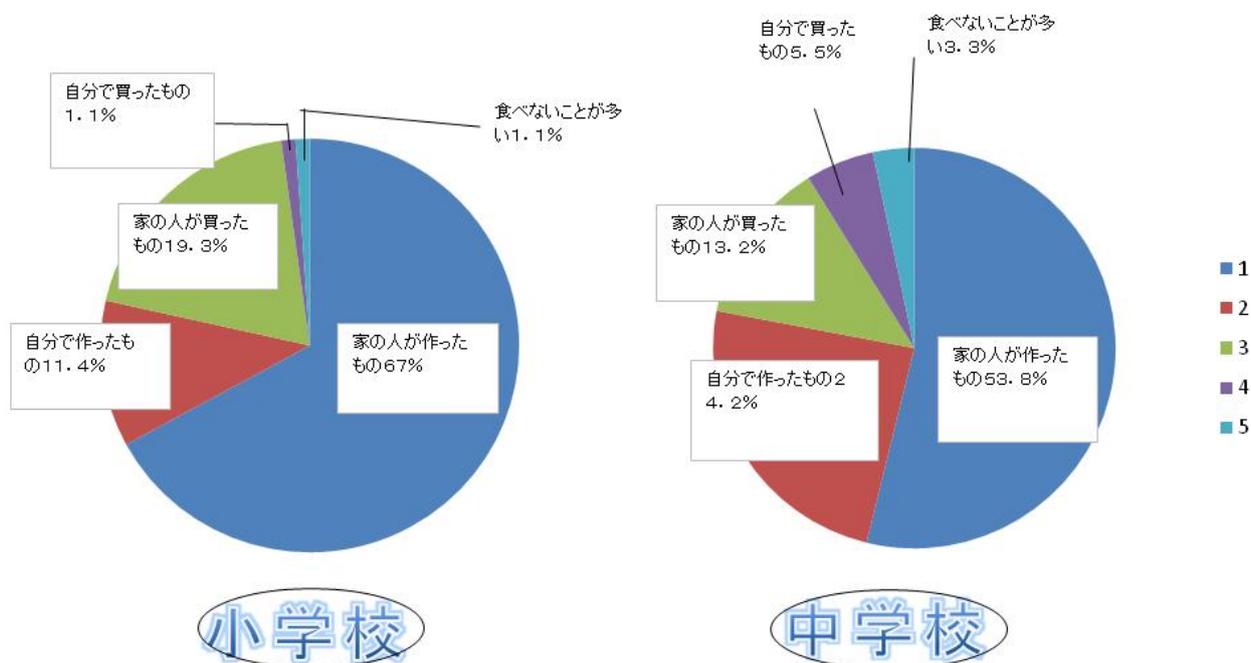
給食指導をする  
栄養教諭(舞鶴中)  
(服装や安全面等)

## 数字で変化のあった事項について

### 《 食育アンケート 》

	小学校（地域7校）		中学校（地域2校）	
	H21（5年生）	H22（6年生）	H21（中2）	H22（中3）
朝食を毎日食べる	85.4%	86.4%	82.3%	84.6%
内 主食のみ	28.1%	18.2%	38.5%	29.7%
朝食をほとんど食べない	2.2%	3.4%	6.3%	3.3%
7時以降の起床	13.5%	11.4%	23.9%	36.3%
食事の挨拶	89.9%	94.3%	88.5%	86.8%
家庭でマナーの注意を受けた	74.2%	88.6%	86.5%	83.5%
排便が毎日	67.0%	69.0%	64.2%	72.1%

### 土曜日の昼ごはんは、 どのようにしていますか（H22）



## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

### ○栄養教諭が在籍する学校における食育指導の効果

- ・総合的な学習で「食事と生活について考えよう」の授業をT・Tで行った。食事や睡眠はそれぞれ分けて考えるものではなく、一日の生活リズムの中でつながっていることを知らせ、自分にあった生活リズムについて考えさせた。

授業後の自己評価では、自分の生活をしっかりと振り返っている姿や、今後の生活態度を自己決定している姿がみられた。アンケート調査を継続して実施し、今後の推移を指導につないでいきたい。



○栄養教諭及び学校栄養職員が連携学校を訪問して食育指導を実施していることの効果

<食育授業>・・・各校食育担当者と連携して指導を行うための体制づくりができたため、今年度はより多くの授業に関われるようになってきた。

学級担任等とT・Tにより、発達段階・地域事情に応じた指導内容を実施することができてきた。



<給食時間の指導>・・・児童・生徒へ多様な知識が備わり、食への関心が高まるとともに、学校給食を身近に感じるようになってきた。

○食育に関する授業研究会及び食育フォーラムを実施したことの効果

<授業研究会>・・・食に関する指導について地域の小中学校に提案し、情報発信することができた。

<食育フォーラム>・・・本校生徒にも生活習慣と食についての講演を聴かせることができ、自分の生活を振り返るよいきっかけとなった。今後も継続した指導を行っていきたい。

## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

○地域の生産者や保護者に協力していただいたの農業体験学習は、ほとんどの小・中学校で取り組んできた。

小学校では時間と人手をかけて収穫までじっくり進めることが可能であるが、中学校では、(植える) → (収穫) になりがちで、地産地消等の理解・促進にはなお一層の地域の方との連携が必要である。

○指導内容を考える上で、学級担任の持つ学級実態と栄養教諭の知識技能とを組み合わせるため、打ち合わせ時間の調整は大切であり、教育委員会の担当者と栄養教諭、学級担任と栄養教諭との密な連絡体制づくりが必要である。

○今後も食に関する指導を、市内31校、すべての地域で行えるように継続した取り組み、さらなる体制づくりが求められる。

○アンケート結果等をもとに児童生徒の実態を家庭に伝え、今まで以上に家庭の意識を高め、連携をとりながら、指導をすすめていかなければならない。